

Abstract of JP 03-42490

A prefabricated boat comprising: a block made of synthetic resins or foaming resins, each separated into three parts longitudinally; an air-room formed between an inner stern sheet and a bottom of the boat; inserting holes and fixing slots for a connecting element formed on the stern sheet and a side sheet; wherein, the connecting element is inserted from a stern of the boat.

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 平3-42490

⑬ Int. Cl.⁵
B 66 B 13/30

識別記号 J
厅内整理番号 6862-3F

⑭ 公開 平成3年(1991)2月22日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 エレベーター用ドアの据付装置

⑯ 特 願 平1-176215
⑰ 出 願 平1(1989)7月7日

⑱ 発明者 岩田 新一 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号 三菱電機株式会社
内

⑲ 出願人 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

⑳ 代理人 弁理士 大岩 増雄 外2名

明細書

1. 発明の名称

エレベーター用ドアの据付装置

2. 特許請求の範囲

乗場出入口を形成する三方枠の昇降路側に、上端部が懸架され前後方向への微動調整機構を持つ乗場ドアを配置したものにおいて、上記三方枠と上記乗場ドアの間に所定寸法のブロックゲージを着脱可能に装着したことと特徴とするエレベーター用ドアの据付装置。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

この発明はエレベーターの出入口を開閉するドア装置に関するものである。

[従来の技術]

第2図～第4図は、例えば特願昭63-133524号公報に示された従来のエレベーターのドア装置を示す図で、第2図は昇降路から見た乗場ドアの正面図、第3図は第2図のIII-III線断面図、第4図は要部拡大斜視図である。

図中、(1)は建物の壁、(2)は壁(1)に設けられた昇降路に通じる穴、(3)は穴(2)の内壁に配置され出入口を形成する三方枠、(4)は三方枠(3)の昇降路側(第2図では手前側)に配置された乗場ドア、(5)は水平横断面がコ字状に形成されたドアハンガで、その下部両側辺には、前後方向への微動調整機能として乗場ドア(4)の前後方向に沿う長穴(5a)が設けられている。(6)は乗場ドア(4)の上端に固定された上部補強材で、その内側面(6a)にはめねじ(6b)が設けられており、ドアハンガ(5)の両側面は上部補強材(6)の内側面(6a)に当接している。(7)はドアハンガ(5)の長穴(5a)を通じて上部補強材(6)のめねじ(6b)にねじ込まれたボルト、(8)はドアハンガ(5)の上部に装着されたハンガローラ、(9)は三方枠(3)の上方の壁(1)に固定されたハンガケース、(10)はハンガケース(9)に固定されて横通しハンガローラ(8)を室内するドアレール、(11)は乗場ドア(4)の表板(12)の裏面下部に横通固定された下部補強材で、案内脚(13)がボルト(14)により締結されて

いる。(16)は乗場床に敷設された敷居、(16)は乗場ドア(4)と三方枠(3)とのすき間を測定する鋼尺である。

従来のエレベーターのドア装置は上記のように構成され、乗場ドア(4)はドアハンガ(5)およびハンガローラ(8)によってドアレール(10)に懸架され、駆動機(図示しない)によって駆動されると、ハンガローラ(8)はドアレール(10)上を転動して、乗場ドア(4)は出入口を開閉する。このとき、乗場ドア(4)の下端は案内脚(13)によって敷居(15)に案内される。

そして、乗場ドア(4)を据え付ける際、チリ寸法(乗場ドア(4)と三方枠(3)とのすき間、乗場ドア(4)相互のすき間等の寸法)を鋼尺(16)等により測定し、ドアハンガ(5)をその長穴(5a)を利用して前後方向に微調整して乗場ドア(4)の位置を決めた後、ボルト(7)を締結する。

[発明が解決しようとする課題]

上記のような従来のエレベーターのドア装置では、乗場ドア(4)の位置の調整は、ドアハンガ

(5)の長穴(5a)によって行なわれているため、チリ寸法を鋼尺(16)等を見ながら調整しなければならず、また乗場ドア(4)の相互調整は、ドアハンガ(5)と上部補強材(6)の間に調整片を挿入して行なわれなければならず、三次元調整となり、据え付け作業時間が長くなるという問題点がある。

この発明は上記問題点を解決するためになされたもので、乗場ドアのチリ寸法を鋼尺等を使用せずにできるようにしたエレベーター用ドアの据付装置を提供することを目的とする。

[課題を解決するための手段]

この発明に係るエレベーター用ドアの据付装置は、三方枠と乗場ドアの間にロックゲージを着脱可能に装着したものである。

[作用]

この発明においては、三方枠と乗場ドアの間にロックゲージを着脱可能に装着したため、据え付け時乗場ドアの関係寸法はロックゲージにより調整され、乗場ドアの微動調整機構を利用して決定される。

[実施例]

第1図はこの発明の一実施例を示す図で、第2図のⅢ-Ⅲ線断面相当図であり、従来装置と同様の部分は同一符号で示す。なお、第2図および第4図はこの実施例にも共用される。

図中、(21A)(21B)は三方枠(3)の昇降路側の面に吸着され所定のチリ寸法を有する磁性材からなるロックゲージで、乗場ドア(4)の表板(12)の外面に接する面には、表板(12)を傷つけないよう養生が施されている。

上記のように構成されたエレベーター用ドアの据付装置においては、据え付けに際し、乗場ドア(4)のチリ寸法を調整するとき、三方枠(3)の昇降路側の面にロックゲージ(21A)(21B)を吸着させ、これに乗場ドア(4)を押し付けて、ドアハンガ(5)とボルト(7)により乗場ドア(4)を固定する。これで、三方枠(3)と乗場ドア(4)の関係寸法は正確に決定される。

次に、ドアハンガ(5)と上部補強材(6)の間に調整片を挿入して、乗場ドア(4)相互の建て付け、

を調整する。そして、乗場ドア(4)関係の調整が終了すれば、ロックゲージ(21A)(21B)は取り外される。

[発明の効果]

以上説明したとおりこの発明では、三方枠と乗場ドアの間にロックゲージを着脱可能に装着したため、据え付け時乗場ドアの関係寸法はロックゲージにより調整され、三次元の調整がなく一次元の調整だけで済み、鋼尺等を使用することなく作業時間を短縮することができる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

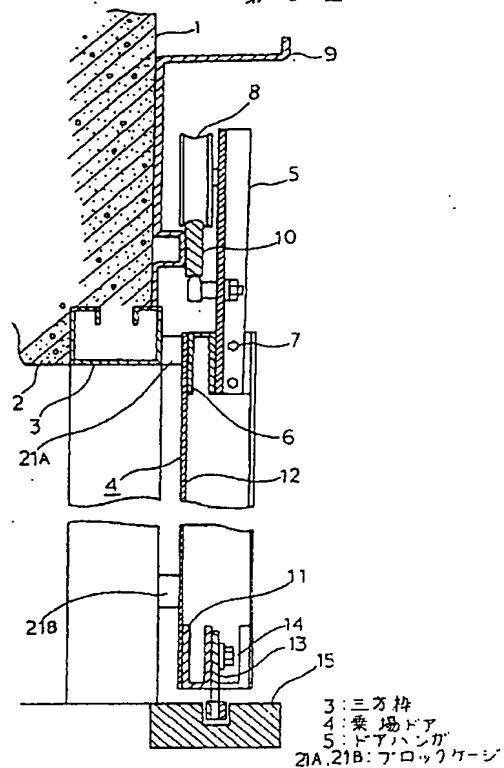
第1図はこの発明によるエレベーター用ドアの据付装置の一実施例を示す図で、第2図のⅢ-Ⅲ線断面相当図、第2図～第4図は従来のエレベーターのドア装置を示す図で、第2図は昇降路から見た乗場ドアの正面図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ線断面図、第4図は要部拡大斜視図である。

図中、(3)は三方枠、(4)は乗場ドア、(5)はドアハンガ、(5a)は長穴、(21A)(21B)はロックゲージである。

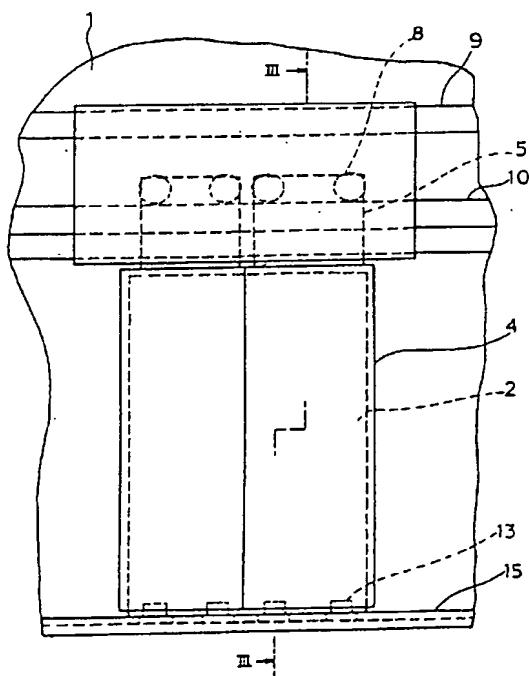
なお図中同一符号は同一又は相当部分を示す。

代理人 大 岩 増 雄

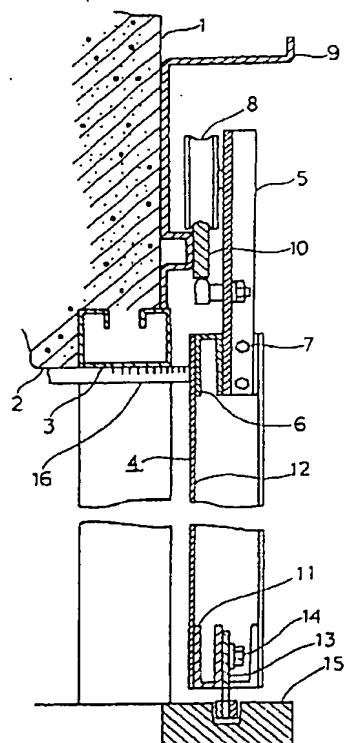
第 1 図



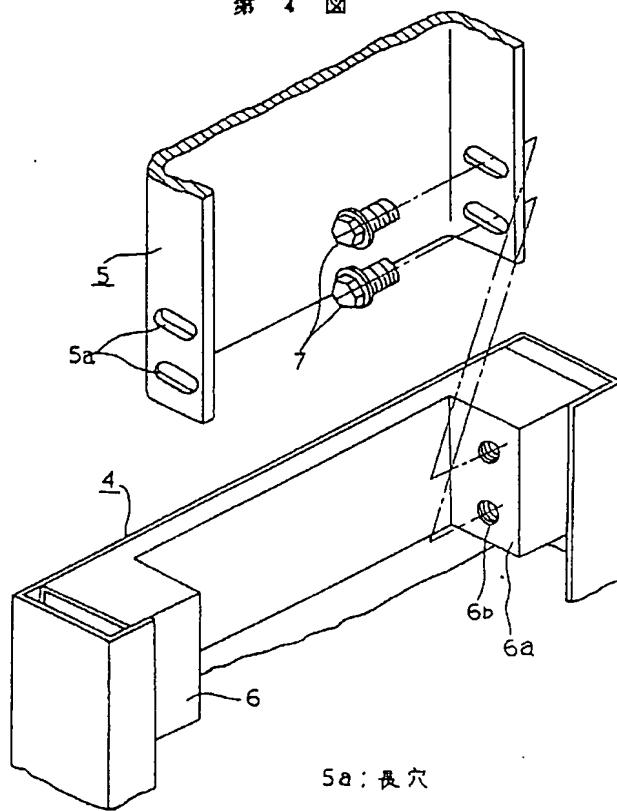
第 2 図



第 3 図



第 4 図



5a : 長穴

PCL XL error

Subsystem: KERNEL
Error: IllegalOperatorSequence
Operator: SetClipReplace
Position: 706